

海外における日本語教師養成講座の一例

ドイツ社団法人・日本語普及センター

真崎 光晴

私ども「ドイツ社団法人・日本語普及センター（フランクフルト・アム・マイン市）」では、昨年（1994年）四月の開設以来、日本語教師の養成を一つの重要なテーマとして取り上げてきた。センターの日本語授業そのものは日本からの専任派遣教師4人で始まったが、まもなく一人が退職し、その後は専任3人と、非常勤の講師数名で運営されている。日本語講座の受講生は開設当初70余名であったのが、その後着実にふえ、毎学期110～120名が登録しているのが現状である。

日本語教師を全部日本から派遣される専門家で充てられれば、それに越したことはない。しかし、現実には経営上の観点からしてそれは不可能である。従ってある程度は現地在住の人のなかから日本語教師を採用せざるを得ない。さいわいフランクフルトのような日本人居住者の多いところでは、教育レベルもかなり高く、時間の余裕もあり、また教育への意欲をもっている日本語教師適格者がかなりいるはずだ。そういう予想のもとに日本語教師養成講座を開設することにした。この見通しは一応あたってはいたが、予期しない困難もあった。

元来海外で日本語教師養成という大事業をやるのが、基本的に可能なことなのか。不可能ではないにせよどの程度のレベルのものがやれるのか。日本国内の場合と同様に教師養成講座の各種の項目や分野にわたって専門知識を備えた講師を用意出来るのか。こうした点を考えれば答えは否定的にならざるを得ない。しかし、教師養成を必要とする要素は厳然として存在する。そこで、相反する二つの要素をいかにして調和乃至は妥協させるかが、現実の問題となった。

はじめセンターでは教師養成講座の期間を一応1年とし、毎回1時間半で週2回の授業を予定した。しかし、実際に受講者を募集しても、その時点での応募者はゼロであった。これは海外という条件の特殊事情によるものと思われる。日本から赴任してきている居住者あるいはその配偶者のなかには、教師養成講座に関心と意欲はもっていても一年という期間は長すぎるというのである。いつ本社からの指令で帰国することになるかもしれない。したがってあまり長期にわたる予定はたてにくいというわけである。やむなくセンターでははじめの予定を大幅に変更し、期間を三ヶ月に圧縮したカリキュラムを組み再募集した。その結果、5人の受講生が現れ、講座は一月遅れの5月から開講された。

本来なら1年でも不十分と考えていたのが、三ヶ月ではあまりに短い。ほんのエッセンスだけしか講義できないだろう。とくに実習面に時間をあてるのが難しい。このような不満が初めからあったが、事態は予想外に好転した。受講者の大半が実際に教師養成講座に参加してみて、日本語教育の奥の深さと、むつかしさ、そして自己の知識の不完全さに気づかされ、もっと勉強したい、しなければならぬと考え、受講の継続を希望するようになった。このため三ヶ月の期間終了後に引き続き第2期の講座を継続させることになった。

日本語普及センターの各クラスは春、秋、冬の3学期制で、夏の期間はインテンシブや個人レッスンあるいは漢字のワークショップなどにあてられる。このため教師養成講座も夏期は開かれず、1年は3学期である。上記のような事情で、受講者のメドがついたこともあり、昨年

の秋学期には新しい受講者のためのクラスと、第2期目の受講者のためのクラスの二本建てが可能となった。こうした事情に基づきカリキュラムの内容も大幅に改め、当初のもくろみ通り、年三回、一年で終了という態勢をとることにした。

このような経緯のもとに1995年の冬、春、秋の3学期の講座のカリキュラムが組まれた。日本語教育連絡会議に提出した資料がそれである。

冬学期はL-1、春学期はL-2、秋学期はL-3のクラスと称している。各学期とも週2回の授業の半分は理論部門、半分は実習部門と規定している。実習部門には教育実習のほか、教授法にかかわる各種の講義や、当センターで開発・使用中の教科書についての解説、教案作成なども含まれる。理論部門は文法、音声、語彙・意味、文字・表記などの基本項目が中心である。L-3クラスでは、日本語の方言、日本語の歴史、国語学史のほか、言語学の初歩知識、対照言語学、社会言語学などにも触れ、さらに日本の政治、経済、社会についての日本事情、日本文化も一応取り上げることになっている。

カリキュラムを見てお気づきになるかと思われるが、文法、音声などをそれぞれ完結するものとしてはとりあげていない。つまり文法が終わってから次は音声といった仕組みにはなっていない。これはもしその学期だけで受講を終えたとしても、それぞれの項目の基本的、初歩的な知識だけは身につくようにいう考え方からである。はじめに基本的なことをやり、逐次内容を高めていくようにするのが、海外という特殊環境の元では効率的であろうと思われる。文法と音声の講義が一回置きになっていたり、L-3のレベルで、文法や音声の補完という科目が組まれているのもそのような配慮からである。

全体を通じて理論部門では、文法が11回、音声が6回、語彙・意味が5回、文字・表記が4回予定されている。このほかL-3クラスで、文法補完が3回、音声補完が1回追加される。実習部門のうち教授法に関しては、別紙カリキュラムに記載のような内容のものを取り上げる。L-3の実習部門の時間に取り上げる日本事情、日本文化は日本語教師としてこの程度のことは知っていなくては困ると思われるものを重点的に取り上げた。例えば日本人の生活慣習としての十干十二支や時間、方位、六曜など。また、生花、茶道、焼き物、歌舞伎、能、狂言なども対象にあげてある。

初めにも触れたように、各種、各項目の全般にわたって専門的な知識を教授することは不可能である。当センターの教師養成講座はそれ自体で完結するものとしては考えられていない。究極的には受講生各位の自発、自啓にまつほかはないが、そのために必要な一応の手引を与え、ごく初歩的な知識、能力を涵養しようというのが、その趣旨である。

日本国内で行われている日本語教育能力検定試験を特に意識したものではないが、これを受験しようとする受講者には一応役立つような内容となっている。当センターの受講生のなかには既にこの検定試験をクリアしているながら、主として実習面での経験をつむ目的で受講している人もいる。そしてまた、センターの講座を終えて、センターの日本語教育現場に非常勤講師として勤務している人も数名いることを付記しておきたい。海外での日本語教師養成のささやかな一例として御報告した次第である。

日本語教師養成講座カリキュラム (1995)

〔第1音B〕 = 理論部門：原則として毎週月曜日または火曜日 (45分 x 2 = 計90分)

週	L-1 (冬学期)	L-2 (春学期)	L-3 (秋学期)
1	日本語概論・日本語教育・特徴 (膠着語・開音節・語順) 歴史	音声⑤イントネーション (機能 種類, 型) プロミネンス	語彙②語の構成, 語彙史, 辞書
2	文法①品詞分類 (学校文法復習) 品詞相互間の関連性	文法⑥助動詞の種類と用法 (統) 副詞の種類と用法	語彙③意味論・語の意味=意義 素, 意味内容, 抑圧, 転用等
3	音声①音声器官と発音・母音, 子音, 半母音・音声表記・調音	文法⑦接続の関係・テンスとア スペクト・語の構成・形式名詞	語彙④意味論続き 誤用文の分析続き
4	文法②動詞の分類 (所V・能V 自・他V, アスペクトから)	文法⑧擬音語・擬態語・擬情語 外来語	語彙⑤意味論続き 誤用文の分析続き
5	音声②音声と音素, 環境, 分布 異音, 最小対語, 有気・無気音	文法⑨授受表現・条件の表現・ ムード (依頼, 禁止, 命令等)	文字・表記③漢字かな混じり文 区切り符号
6	文法③動詞の活用, 音便, て形 た形, ます形, 辞書形, 形容詞	文法⑩ヴォイス (可能, 自発, 受動, 使役態)	文字・表記④現代仮名遣い・ 助数詞・不確定数詞
7	音声③音節・拍 (モーラ) 五十 音図, アクセント・特徴, 記号	文法⑪待遇表現 (敬語, 卑語) 文体 (formal, informal)	文法補完①動詞の分析
8	文法④形容詞続き (特徴, 接続) 指示詞 (コソアド)	語彙①語彙と語彙体系・語の形 語の数・語種	文法補完②助動詞の用例続き
9	音声④アクセント続き (変化) が行鼻濁音, 母音の無声化	文字・表記①平仮名, カタカナ ローマ字・漢字の成り立ち	文法補完③助詞の用法比較
10	文法⑤助詞の種類と用法, 「が」と「は」の比較	文字・表記②漢字の合成, 筆順 字体と意味, 漢字の指導法	音声補完①アクセントの変化 (続き)

〔第2音B〕 = 教授法・実習部門：原則として毎週水曜日または木曜日
*前半の45分

1	直接法と対訳法の長短	絵パネル, テープ, VTRなど	日本語の方言・方言地図・東西
2	コースデザイン・シラバス	テスト, 評価, 能力試験	万葉仮名・上代特殊・定家仮名
3	文型教育 (代入, 変形, 拡大)	誤用文の分析と研究	国語学史・山田, 橋本, 時枝ら
4	外国語教授法の各種	教育実習①ビデオ	言語学初歩 (構造・変形生成)
5	教案の紹介 (MJ, 初歩等)	教育実習②ビデオ続き	対照言語学・社会言語学
6	会話と談話, 文と文章	教育実習③ビデオ続き	日本事情①政治, 経済
7	中, 上級の指導, 中級教科書	教育実習④	日本事情②社会, 宗教, 報道
8	発音指導 (MJのドリル等)	教育実習⑤	日本事情③生活慣習, 干支, 時
9	聴解指導 (MJのオーラル等)	教育実習⑥	日本文化①茶道, 生花, 陶磁器
10	タスク, ロールプレー	教育実習⑦	日本文化②歌舞伎, 能, 狂言

*後半の45分はセンター・テキストの解説及び教育実習